

## 出題傾向の 解説&解答の ポイント

## 2020年度 一般入試A日程(1日目)の 「国語」を詳しく解説!

# 国語

### 出題形式

大問は2つで、いずれも現代文、すべて五者択一のマーク形式。第1問は2550字程度の言語哲学の文章。現代の言葉の危機について論じている。論旨や主張も明確な文章だが、使用されている語彙(い)のレベルがやや高い。第2問は、探検家であり作家である筆者が冒険に出る動機を言葉の魔力という観点から語った文章で、かなり抽象的な議論を展開している。第1問、第2問ともに、普段からある程度硬質な文章を読み慣れていないと難解に感じる文章である。

第1問は設問数10(マーク数19)で、漢字(傍線部と同じ漢字を使うものを選ぶ)、語義、語句の空欄補充、内容理解に関するもの、内容合致、それに文学史である。漢字の問題のレベルがやや高く、空欄補充問題の選択肢や語義の問題のレベルもやや高い。内容に関する設問は標準的なレベルである。

第2問は設問数10(マーク数17)で、漢字問題は傍線部の漢字と組み合わせで熟語を作れる漢字を選ぶという珍しいスタイルで、かなりの語彙力が必要。後は語義、口語文法、接続語句の空欄補充、脱文挿入問題、内容理解に関するものである。こちらも漢字の問題、語義の問題のレベルがやや高い。内容に関する設問は標準的であるが、文章が高度なのでやや難しく感じたかもしれない。

### 解答のポイント

まずは読書や漢字の学習を通して語彙力の強化をはかってほしい。本年度は第1問、第2問ともに文章内容が高度で、語彙のレベルもやや高かった。ある程度の語彙力を持ち普段から硬めの評論を読み慣れていないとなかなか読みこなせない文章である。また、設問全体で36個のマークのうち、漢字問題が9個、語義の問題が5個である。言葉の知識に関する問題以外でも設問選択肢の語彙のレベルが高い。よって、普段から硬めの新書などを読書し、やや専門的で高度な文章に慣れるとともに、漢字の問題集に取り組むのがよい。そういう努力をする中で、評論で使用されるような語句に出会い、こまめに辞書を引くことによって、語彙力の強化につとめること。空欄補充問題についても、選択肢の語句の意味を知らなければ判断できないのである。

その上で、私立大学向けの問題集に取り組む。当大学の設問形式は一般的なものである。一般的な私大向けの問題集ならば、似たような設問形式に出会える。その中で、空欄補充問題や、内容説明、理由説明といった文章理解に関する設問、内容合致問題などの練習をすること。なお、その際、なんとなく本文を読んで選択肢を読み「これが答えかな」という選び方ではいけない。空欄補充問題なら、その空欄を含む一文を押さえたり、前後の文脈を踏まえたりした上で、解答根拠を意識すること。内容理解型の選択肢も、選択肢選びに必要なのは本文記述に基づくことである。「本文のここにこう書いてある以上、この選択肢のこの部分は良いし、この部分はまずい」ということを意識して選択肢の適否を判断するようにしよう。

なお問題集に取り組む中でも、入試レベルの文章を読み慣れ、知らない語句を調べて覚えていかねばならないことは言うまでもない。